

すべての子どもが 書けるようになる作文指導



主語と述語の意識を持たせるため考え出された『文ちゃん人形』

2021年9月8日

田村利樹

私は、児言研（児童言語研究会）で大久保忠利・小林喜三男・松山市造・紺屋富夫・三宅研太郎氏などと作文の研究をしてきました。その時の研究は、『小学生の作文教育』1・2・3年、4・5・6年（明治図書出版・1983年）にまとめました（この著述と実践で読売教育賞の賞外優秀賞を受賞）。

研究を通じて、特に、印象に残ったことは、『すべての子どもが書けるようになる』ことの追求でした。その中で、印象的だったことを、つぎの三点にわけて書きます。

- 1 取材指導
- 2 記述指導
- 3 推敲・鑑賞

1. 取材指導

子どもたちは、黙っていると一日中ただ過ごすことが多い。

そこで、「きのうあったことの中で『自分のニュース』を発表しましょう、『ニュース』とは、自分の心に残ったことです。」となげかけます。

そうすると、何人かの子どもが、発表します。

A君「サッカーで勝ったことです。」

Bさん「わたしは、バレエでほめられたことです。」

C君「ぼくは、いじめられたことです。」

Dさん「・・・・・・・・・・・・・・・・」

次々に発表があります。

でも、発表ができない子がいます。

これは、『ニュース』の意味がわからないからです。

そういう子にもわかってもらう必要があります。

そこで、次のような表を用意しました。

月日	6. 1	6. 2	6. 3				6. 28	6. 29	6. 30
ニュース	ニュース	ニュース	ニュース				ニュース	ニュース	ニュース
氏名									
赤城	サッカー で勝った こと	わり算が できたこ と							
春奈	バレエで ほめられ たこと								
利根									

注1 この表は、もぞう紙の大きさを利用する。

注2 「サッカーで勝ったこと」などを書く部分は、大きさをそろえた紙を渡しておいて、貼るようにする。

この表を見て、『ニュース』とは、どういうものかわかったようです。
この表のように<発表・貼る>を、1か月、続けました。
そうしているうちに、『ニュース』のことは、わかったようです。

そこで、この1か月の中で一番心に残るものはどれか選ばせます。
それを書くことにしました。

このことは、小林喜三男（元児言研委員長）の論文「日記指導・一週間の特訓」『国語の授業』誌26号（1978年6月、一光社）に学びました。

2. 記述指導

取材指導ができましたら、記述指導です。

記述指導では、ただ、記述をすればいいのですが、いくつか補足を書いてみます。

- ① <話すから書く>の指導がない場合は、これを入れた方が良いでしょう。
(参考資料)

A 「一年生初めての指導をこうした」－「文カード」を使って全員書けるようになった－『小学生の作文教育』1・2・3年、明治図書、1983年(P.48～P.53)

<https://iss.ndl.go.jp/books/R100000001-I085226480-00>

2年生以上は、時間を省けるでしょう。

B 誰もが書けた作文教育(文ちゃん人形の導入)

ブログ『日本の教育はこれでよいのかな』

<https://plaza.rakuten.co.jp/zyx1830/diary/200509300000/>

- ② 焦点化させる・・・これは、だらだら書くのではなくまとまった文を書くということです。これによって、また、主題意識も養成されます。

- ③ 主語と述語をはっきりした文を書く。(主語省略も教える)

以上、述べましたが、これらの道を通っていれば、すべて子供が書けるようになります。

3. 推敲・鑑賞

① 文章・日記など価値判断にかかわることは、慎重にする。

このことは、大久保忠利氏が都立大学の学生に『書き慣れノート』を書かせて得たことです。小学生の作文教育でも参考になりました。

② 小学生の場合は、毎日書く

毎日、書くことは、一日で、心に残ったことを書き留めることができます。1年間では、大学ノート7冊ほど書いた子どもがいました。このノートは、最後に1冊にまとめてあげました。

ただし、子どもの生活は、色んな事があるので一日に書く時間を10分程度としました。毎日、書くことが、書く力をつけるからです。

ノートは、大学ノートで、1行おきに書かせました。1行おきだと推敲がしやすいからです。

★参考文献★

●小林喜三男「日記指導・一週間の特訓」『国語の授業』誌26号 一光社 1978年6月

●小林喜三男・田村利樹編『小学生の作文教育』1・2・3年（現代言語表現シリーズ：2）明治図書出版 1983年

●小林喜三男・田村利樹編『小学生の作文教育』4・5・6年（現代言語表現シリーズ：3）明治図書出版 1983年

●ブログ『日本の教育はこれでよいのかな』の作文教育（田村利樹）

<https://plaza.rakuten.co.jp/zyx1830/>